

5月1日朝会の校長の話(概要)

先週はとっても素敵な離任式ができました。皆さんが書いてくれた手紙にはその先生との素敵な思い出がたくさん書かれていました。校長先生は、思い出ってどうしていつまでも覚えているのかなって不思議に思いました。校長先生は今年 50 歳になるのですが、いまでも小学校生活のことを覚えています。

例えば、みんなで 6 年生の時の海の生活があって 60 分泳ぎ切ったこと。6 年生の運動会でリレーの選手になって優勝できなくて悔しかったこと。もう 40 年近く前なのに、どうして覚えているのかなって。そこでお休みの間に調べてみたら、思い出が残るためには大きく 2 つのポイントがあることが分かりました。一つは、体験をすることだそうです。教室や家の中で見るだけとか聞くだけではなく、実際に出かけたり、実際に取り組んだり、目や耳や鼻やすべての感覚を使って味わうこと。これがポイントなのだそうです。もう一つは、感情が伴うことだそうです。その体験をしているときに、嬉しい、楽しい、悲しい、など様々な強い気持ちが一緒に起こること。これもポイントなのだそうです。確かに、苦しい思いをして体を動かしたり、海の水を飲んだり、急に海水が冷たくなったり、様々な感覚があったし、友達と励まし合って泳ぎ切った時、涙を流して喜び合って心が大きく揺さぶられました。だから覚えているのだと考えました。明後日から 5 連休。お家に閉じこもらずにたくさん体験をして心揺さぶられるようなことが一つでも二つでも味わえるとよいですね。また、運動会に向けても、同じようによい思い出ができるよう、進めていきましょう。